週刊
通販新聞
発行所
株式会社　通販新聞社
東京都文京区本郷2－11－6
〒113－0033　（谷口ビル4F）
電話　03－3815－7635（代表）
03－3815－1962（代・表）
FAX　03－3815－7196
URL：http://www.kbnews.jp
毎週1回（木曜日）発行
購読料　年間31,100円（税込み）
振替口座番号　00140－2－745705

どちらも大事！
☑訴求力
☑法令順守
薬事法広告研究所
連絡 EICアーキテクト(株) 03-6225-0842

注目分野の通販市場の状況は？

ジャンル別通販売上高ランキング

通販新聞社は7月、「第68回通販・通教売上高ランキング調査」を実施し、売上位300社の売上高ランキングを発表した（1616号参照）。同時に健康食品、化粧品、食品、衣料品といった通販の主力商材別の売上高調査も行った。今回は市場規模が大きく、また強豪がひしめき、今後が注視される「総合通販」「家電」「家具」「BtB通販」を展開する上位の通販実施企業の直近の売上高を抜粋したランキング表を掲載しつつ、それぞれの通販市場の動向と各プレイヤーの状況について見ていく。

総合通販

ショップチャンネル、ベルーナなど増収に

カタログやテレビを主媒体とした総合通販であり、24時間に渡って英家電メーカー「ダイソン」が減収になるなど苦戦が目立つ一方、増収を維持する企業も見られた。

1位のジュピターショップチャンネルは当期に創業20周年を迎えたこと受け、様々な商品開発や番組の企画、新たな販促策などこれまでにないチャレンジを実施。新種のバラの命名権やスーパーカー、別荘などこれまで販売実績のないユニークな商品を紹介、販売する「夢を売えた」と題した記念企画を実施した。

2位のニッセンホールディングスは昨年11月にセアン&アイ・ホールディングスの完全子会社となったことで、決算期末日を12月20日から2月末に変更、前期は14カ月決算となっている。そのため増減率は算出しない。

前期は大型家具事業からの撤退とインテリア関連売り上げの減少、カタログ多頻度発行施策の戦略修正、スペシャルカタログの統廃合等の影響で減収となった。

3位のベルーナは主力の総合通販事業でネット販売が伸びたほか、専門通販事業も好調に推移。前期の連結売上高は当初見込みを上回った。総合通販事業では、CVR（受注転換率）上昇に向けて実施した、通販サイトや集客の効率改善、ネット専用商品投入といった施策が功を奏した。

4位のディノス・セシールはディノス事業ではテレビ通販が主力の午前枠を軸に売れ筋の美容運動器具や家電などで売れ行きを伸ばし、前年実績を上回ったが、衣料品や家具インテリアなどが伸び悩み、カタログ通販が振るわなかった。セシール事業は化粧品や健康食品の売れ行きは順調だったが、衣料品や家具インテリアなどが苦戦した。両事業ともに前年実績を下回ったことで売上高全体でも減収となった。

5位の千趣会の通販事業は、衣料品を中心に相対的な商品力が低下したことや、カタログ配布者のレスポンス減分をネットで補い切れず、また、スマホ受注は伸長したものの、パソコン受注の減少分を補填できなかったことなどが響いた。ジャンル別では、インテリアが前年比微増と健闘。規模は小さいながら食品は2桁増となったものの、主力の衣料品が個人消費鈍化の影響もあって2桁減と振るわなかった。

主力事業であるベルメゾンのカタログ発行部数は、ファッション系のカタログ冊子を増やしたことで約1000万部増となったが、総ページ数は減らした。期初計画では媒体量を増やして売り上げ回復を狙う予定だったが、春号の結果を受けてコスト削減に舵を切り、利益確保を優先した。

6位のQVCジャパンは、ネットで注文した商品を店舗で受け取れるサービスの専用ショップを試験的に開設。主要駅近隣や商業施設など、顧客の利便性の高い立地への開設を進める予定としている。

家電

ヨドバシが1千億円超に

主に家電を販売する小売企業（メーカー直販やパソコン専門は除く）を売上高順に10位まで抜粋した。

1位のジャパネットホールディングスは、過去最高の売上高を計上すると好調だった。今回調査からグループ内の中心企業であるジャパネットたかたではなく、グループ全体の売上高としているため、単純比較できないものの、前回（1559億1400万円＝ジャパネットたかた単独売上高）よりも大幅な増収となっている。

前年に創業者で前社長の高田明氏がテレビ通販番組への出演から引退するなどでテレビ通販の売り上げへの影響が懸念されたが、枠を増やすなど積極的な攻勢でテレビ通販も順調だったほか、新聞広告や折り込みチラシ、DM、カタログなど媒体の紙媒体の通販も好調に推移した。また、昨年7月には通販サイト「ヨドバシドットコム」は「旗艦店舗」となっている。家電以外にも、書籍や日用品、食品などさまざまな商材を取り扱う総合サイトとなっている。サービス面でも、購入額によらず送料無料、率化を進めネット販売も追加料金なしでも注文当日の配送、さらには同じく追加料金なしで最短2時間30分以内に届ける「ヨドバシエクストリーム」（東京23区などで実施）など、サービス面の充実は他社の追随を許さない。自社配送を実施しており、都内ではヨドバシドットコムの配送車やバイクを目にする機会が増加している。

今年7月には大阪市の「ヨドバシ梅田」の店外に占める割合も15％を超えており、同社の通販サイト「ヨドバシドットコム」は「旗艦店舗」となっている。家電以外にも、

2位ヨドバシカメラは、1000億円の大台を突破した。全社売上高

売れ行きが順調だった。

4位ギタムラは「宅配買取売上」を合算した売上高がやや減った。昨年4月に発生した熊本地震によりデジタルカメラのパーツ工場が被災し、製品が供給不足となったことが響いた。

5位ビックカメラは、子会社であるソフマップ、コジマと合算した売上高については、グループ合計で前期比約4・5％増の690億円だった。コジマの売り上げが大きく伸びている。

6位MOAは、各社の仮想モールへの積極的な出店が功を奏し、売り上げが伸びている。

ジャンル別売上高ランキング（家電）

順位	社名	前期売上高 実績（百万円）	前期売上高 増減率（%）	決算月
1	ジャパネットホールディングス	178,300	—	12月
2	ヨドバシカメラ	108,000	8.8	3月
3	上新電機	※ 55,000	—	3月
4	キタムラ	40,478	▲3.4	3月
5	ビックカメラ	35,000	0.6	8月
6	MOA	28,935	14.6	6月
7	ピュアクリエイト	※ 25,000	7.3	7月
8	エディオン	※ 22,000	—	3月
9	ストリーム	20,115	▲3.6	1月
10	コジマ	18,000	28.6	8月

注：ジャパネットホールディングスはグループ全体の連結売上高
※：本紙推定

今週の主な記事

カタログハウスの高遠裕之社長に聞く……3面
ジーユー、ECと情報連動の店舗を新設……4面
ロコンド、配送サービスを一新……7面
千趣会、秋冬の主力商品の販売を開始……8面